

「ありがとう」

何か人に良いことをして感謝をされたときに「ありがとう」と言われることがあります。

また・・・「ありがとう 言われるように 言うように」

という仏教の標語もあります。この標語は、感謝の気持ちを表すのに率先的に「ありがとう」と言い、また、「ありがとう」と言われるような生活をすれば、より良い日々の生活を送れるのではないか、という事でしょう。

あまりにも日常的になりすぎて「ありがとう」は仏教から始まった言葉であることは、知られていないかもしれません。

法句経という短い文章が集まったお経の中で、

「ひとの生をうくるは かたく

やがて死すべきものの

いま生命<sup>いのち</sup>あるは ありがたし

正法<sup>みのり</sup>を耳にするは かたく

諸<sup>みほとけ</sup>仏の世に出づるも ありがたし<sup>いず</sup>」

とお釈迦様はお示しになっています。

人間として生まれることは難しいと最初にお釈迦様は説かれますが「有ること<sup>がた</sup>難し」めったにないこと、出会えたこと自体が珍しいことが「ありがとう」の始まりだと言われています。

また、大本山永平寺を開かれた道元禅師もその著書『正法眼蔵』の中で、

「人として生を受けること 難しく、また御仏の教えに出<sup>であ</sup>値うこと まれである」

と説かれています。

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

このように、「ありがとう」という言葉には、出会えた事に感謝をするという意味もあるのではないのでしょうか。

近頃、何かにつけて「ありがとう」と口癖のように言われて気になる。また、何かにつけて「すみません」「すみません」と言われて気分が滅入ってくる。と話される方がいます。反対に、何かしてあげてもお礼の言葉もない。当然だと思われている。と不満を持たれる方もいます。

しかしよく考えてみると、人が集まって暮らしている中で、「ありがとう」と言われた時、「こちらこそ」「どういたしまして」などと答えているのでしょうか。お礼の言葉がないと不満を持つ人が自分から「ありがとう」と伝えていらっしゃいますか。

お釈迦様の教えを基準として今一度、自らの生活を見直してみても良いかもしれません。「有ることがた難し」の世の中です。「ありがとう」の反対語は「あたりまえ」といわれますが、当たり前ではない世の中を私たちは生きているのです。

— 終 —